

立命館大学考古学論集 III-2 目次

愛知県における弥生貝塚について －貝塚の特性と漁撈活動の推測－	岩瀬彰利	587
近江湖南における弥生墓制の一試論 －滋賀県服部遺跡の方形周溝墓群から－	丸山竜平	605
弥生時代末期における埋葬儀礼の一形態 －口酒井遺跡円形周溝墓の例－	浅岡俊夫	619
ふたたび青谷上寺地遺跡の殺傷痕人骨をめぐって	湯村功	631
青銅器鑄造遺跡における粘土の研究	神崎勝	643
柳井茶臼山古墳の埴輪とその生産組織 －異系統埴輪共存の意義をめぐって－	廣瀬覚	657
初期須恵器観察ノート ー杯身になされたヘラケズリと製作手順ー	伊藤純	679
須恵器生産者とその墳墓 ー牛石13・14号墳の再検討ー	中村浩	687
多視点のキャンバス	河野一隆	701
棺と古墳祭祀(2) ー『閉ざされた棺』と『開かれた棺』ー	和田晴吾	713
日本古代の丁字	菅谷文則	727
古代の藤井寺地域における土師器甕について	新開義夫	737
上人ヶ平瓦工房に関する一考察 ー大規模瓦工房の操業契機をめぐってー	奥村茂輝	747
平城宮の大改造	湊哲夫	757
古代都城の内裏と離宮 ー長岡京東院跡の評価を中心にー	國下多美樹	771
長岡京造営論ノート ー長岡宮式軒瓦の再検討ー	山口均	789
五輪塔の成因・形成・日本展開 ーSaito Printにみる斎藤彦松氏の到達点ー	小林義孝	825

鳥取県における中世墓の変遷について	八 峠 興	843
明治時代に於ける興福寺と什宝	藪 中 五百樹	857
英国新石器時代の定住性の理解	富 井 眞	897
チョールタヴィ・ヴァロータ洞穴の土器、 装身具および骨角器についての一考察	川 崎 保	911
「東西印章史論序説」 －中国の印章とシルクロードの印章とオリエントの印章－	久 米 雅 雄	925
後漢代大型墓の構造と規格	岡 村 秀 典	939
三燕における帯金具の新例をめぐって	藤 井 康 隆	951
新羅文様塼の製作技法	高 正 龍	967
契丹国（遼朝）道宗朝の政治史に関する一考察 －慶陵出土の皇后哀册の再検討－	武 田 和 哉	981
「考古学」パラダイム史序説	星 野 達 雄	1007
初期の「型式」と「様式」の相違 －山内清男の「型式」と小林行雄の「様式」－	矢 野 健 一	1031
東南アジアの土器作り民族誌における工程間の結びつき	小 林 正 史	1043
土器の物理的特性と用途	西 田 泰 民	1067
「刷毛目」調整と工具の基礎的研究1 －「刷毛目」研究の課題と「刷毛目」の役割－	木 立 雅 朗	1079
地形環境考古学序説 －地形環境分析と考古学における「地層」認識の問題点－	高 橋 学	1105
2つ眼の野外科学 －地理学と考古学によるステレオグラフ－	中 塚 良	1127